

授業科目名 <英訳>	宗教人類学 Anthropology of Religion		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 石井 美保			
群	人文・社会科学系科目群	系列	地域・文化系（基礎論・人類）		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2015・前期	曜時限	火1	配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】							
<p>この授業のタイトルは「宗教人類学」である。「宗教」と「人類学」の取り合わせは、一般に耳慣れないものであるかもしれない。だが、宗教は常に、人類学の重要な研究対象のひとつであった。人類学者が取り組んできた「宗教」とは、キリスト教やイスラームといったいわゆる「世界宗教」にとどまらない。人類学的考察の対象となる「宗教」とは、「世俗」から分離された特別な領域を意味するのではなく、政治や経済の動向、また人々の日常的な悩みや欲望と密接に結びついた、なまなましい現象や具体的な行為である。</p> <p>この授業では、主に次のような問いについて考えたい。私たちの日常的な実践／行為における「宗教性」をどのように考えるべきか。憑依や呪術といった一見「アルカイック」な宗教実践や、ファンダメンタリズムと呼ばれる一見「過激」な宗教実践と、私たちの日常的な営みとの共通性は何か。この授業を通して、宗教とは、特定の教義やそれへの信仰だけを意味するものではないこと、また、宗教をめぐる問題は、日常の生の偶有性、近代的主体像の限界、モノ／非人間のエイジェンシーといった広大な問題系とつながっていくことに気づいてほしい。</p> <p>この授業では、上記のテーマに関する講義に加えて、受講生がいくつかのグループに分かれ、自主的に設定した人類学的テーマについて調査（必要に応じて文献研究、フィールドワーク等）を行う。それぞれのグループは、その成果を授業中に発表するとともに、一本のレポートをメンバー全員で作成する。独自のテーマを探求することを通して、机上の学問に収まりきらない人類学の面白さに触れることが、この授業の目的の一つである。</p>							
【到達目標】							
現代人類学の重要なテーマを学習するとともに、グループワークにおいて独自のテーマを積極的に探求することを通して、日常を相対化する視点を身につけることができる。							
【授業計画と内容】							
授業では、以下のトピックについて、それぞれ1～2回の講義を行う。また、受講生はいくつかのグループに分かれて人類学的テーマについて調査し、発表を行うとともにレポートを作成する。							
<ol style="list-style-type: none"> 1 宗教人類学的フィールドワークへの誘い 2 呪術・儀礼と行為遂行性 3 西アフリカにおけるフェティッシュの流通 4 呪物のエイジェンシー 5 インドにおける環境運動と神霊祭祀 							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点及び達成度】							
授業での発表（40％）、平常点（30％）、レポート（30％）を総合して評価する							
----- 宗教人類学(2)へ続く -----							

宗教人類学(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
授業のなかで適宜紹介する。

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/ishii.htm>

[授業外学習(予習・復習)等]

適宜、人類学ならびにグループワークのテーマに関連する文献を読むこと。

[その他(オフィスアワー等)]

以下は事務的な補足です。

- ・この授業の主眼は講義、ならびに発表と講師の解説ですので、演習とは異なります。したがって、フィールドワークは必須ではありません。
- ・発表のためにフィールドワークを実施する場合、費用は各自の負担となります。
- ・学生教育研究災害傷害保険に加入しておいてください(原則として、新生は全員加入することとなっています)。